

「スマートモビリティチャレンジ 推進協議会」活動報告

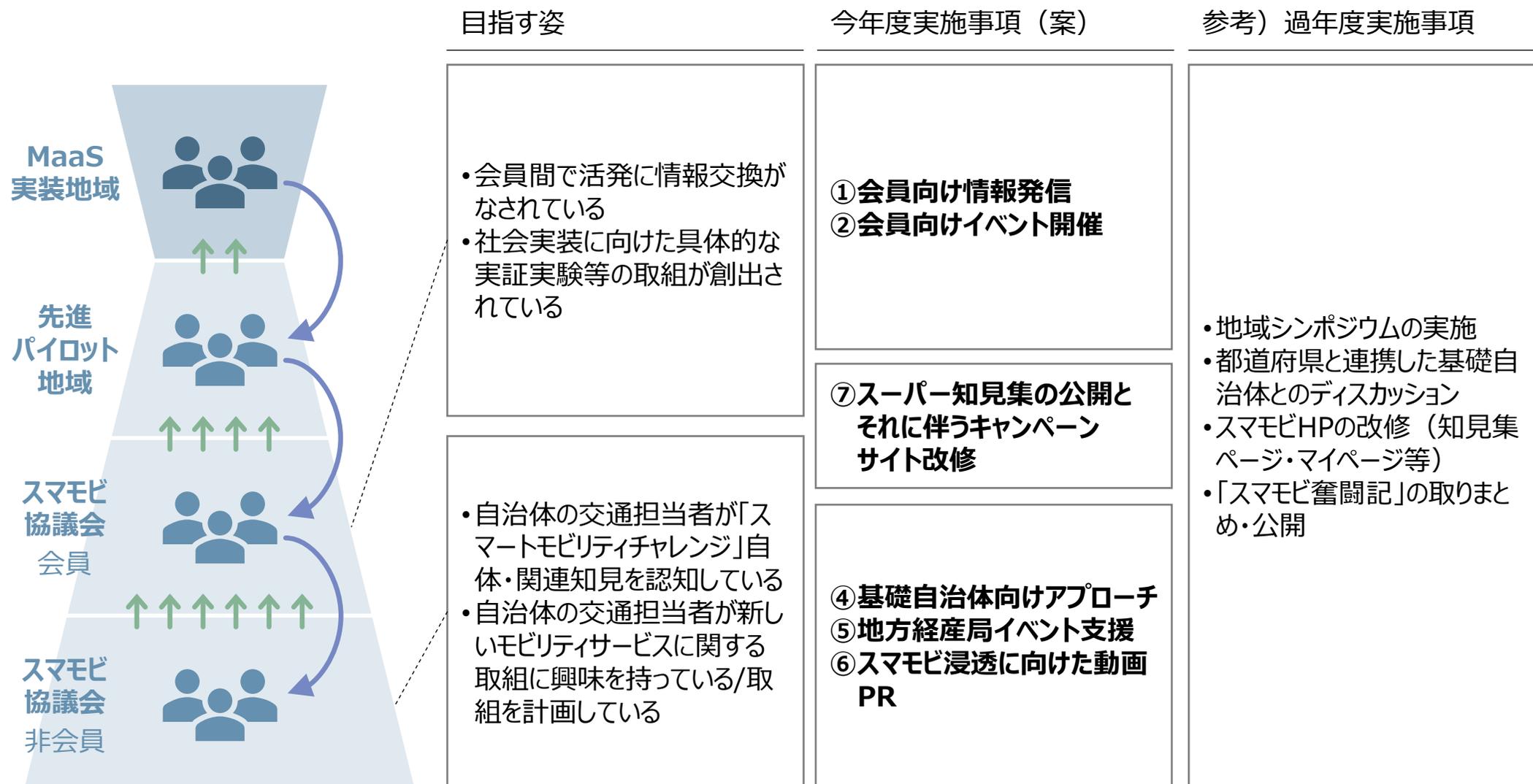
株式会社野村総合研究所
産業技術総合研究所
日本工営株式会社

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト



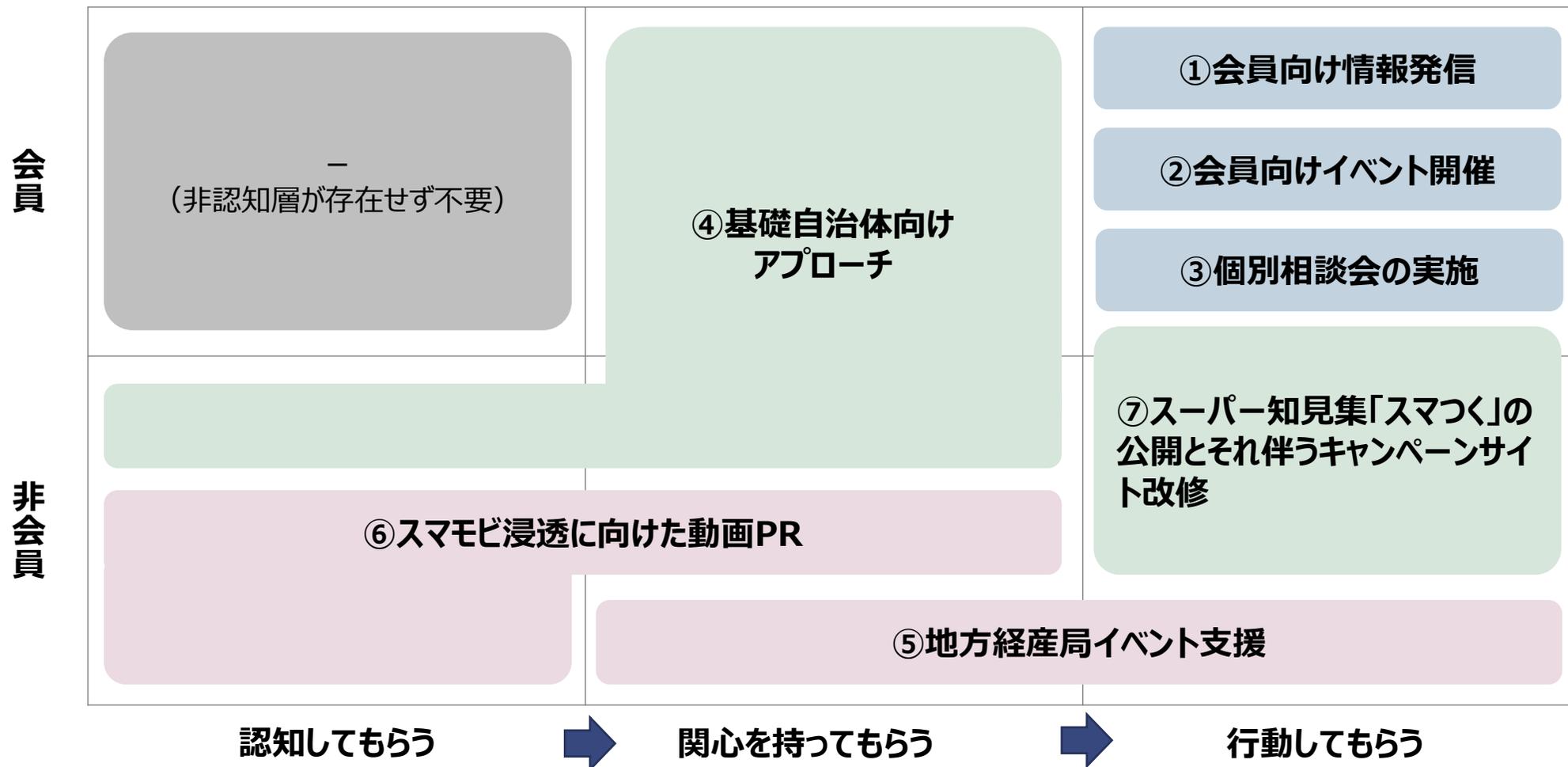
RoAD to the L4

MaaS・スマモビのムーブメントの継続・更なる活性化を目指し、取組を担う自治体担当者等への確実な情報伝達と、社会的な機運醸成を促進する施策を一体的に実施する



R5年度は、認知→関心→行動それぞれのフェーズごとにコンテンツを整理・拡充し、協議会の会員・非会員問わず、スマホの認知・関心が無い層へのアプローチ強化も実施

協議会活動でターゲットとする分類と対応方針



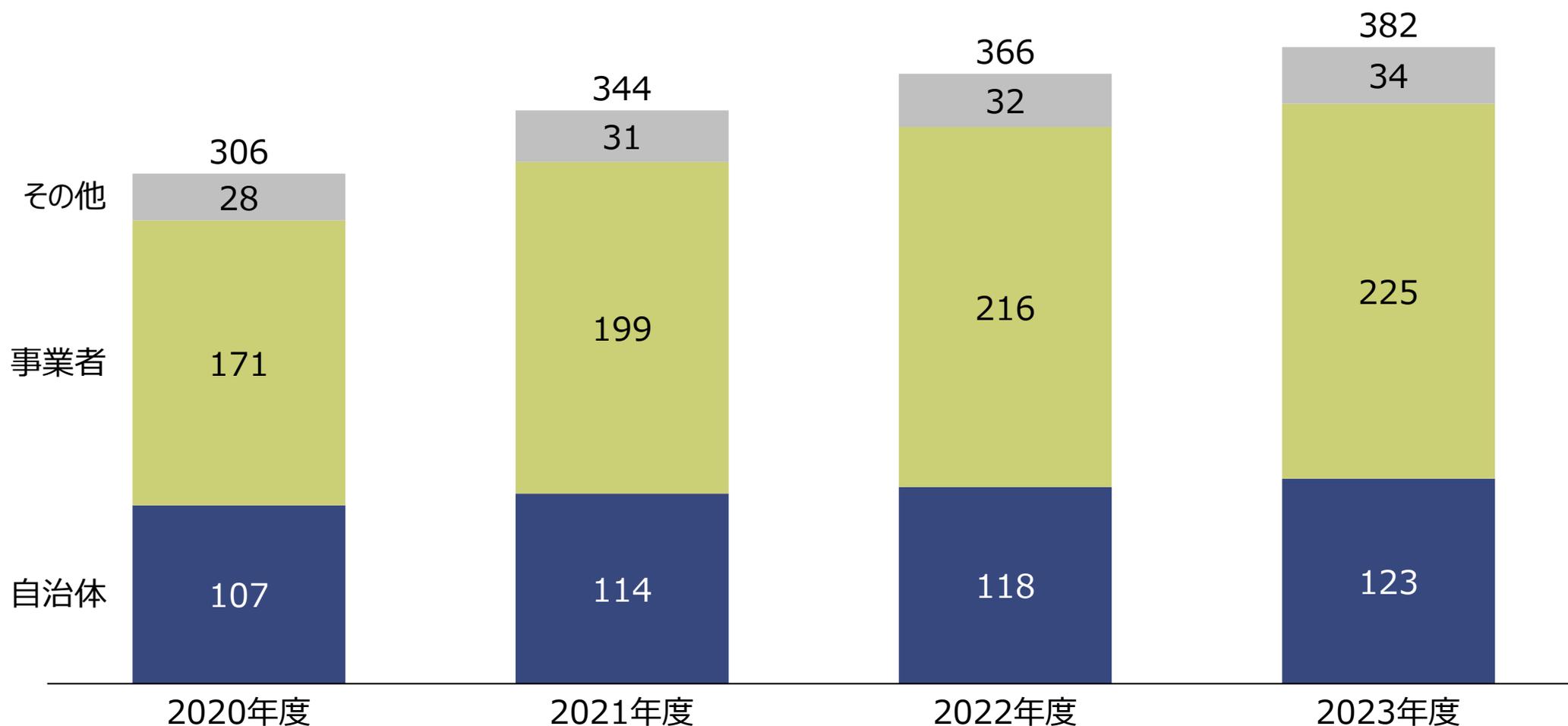
今年度は協議会活動の内容を拡充し、①～⑦の7つの取組を推進。

 …本日のご報告内容

対象	取組	具体施策（タスク）	KPI
自治体 交通担当・ DX担当等	①会員向け情報発信	メールマガジンの運用 ・ Smart Mobility Challengeの定期的な情報配信を行う	・ メールマガ配信回数：9回 ※アクションKPI
	②会員向けイベント開催	スマモビ体験会の実施 ・ Smart Mobility Challenge内で事業実績のあるエリアへの誘引を図り、知見を深めることを目的に、北海道上士幌町、沖縄県北谷町、長野県塩尻市で実施。 スマモビ成果報告会の開催 ・ 協議会会員（新規加入会員含む）向けの成果報告会を開催。「スマートモビリティの創り方（通称スマつく）」の紹介に加えて、基調講演やパネルディスカッションなどのコンテンツを盛り込んだ。	・ イベント参加自治体数： 上士幌町16名、北谷町17名、塩尻市22名 ・ 成果報告会の事前申込者数：479名(対面123名、オンライン356名)
	③個別相談会の実施	個別相談会の実施 ・ 主に自治体や交通事業者の担当者向けに、個別の相談会により交通関連事業の相談を受けて他地域の事例紹介や個別事案に対する助言を実施。	・ 相談会実施件数：3件 (南種子町、北勢線協議会/桑名市、神姫バス)
全対象	④基礎自治体向けアプローチ	基礎自治体へのアプローチ（コンタクトリストの作成・DM郵送） ・ 全国の基礎自治体のスマモビ担当部署リストを作成し、ダイレクトアプローチを実施。今後の情報提供の可否を確認すると共に、コンタクトリストを作成。 ・ 過去の知見集やスマモビ体験会、協議会の案内などを全国1741自治体の担当部署に郵送。	・ コンタクトリスト掲載自治体数：1,741自治体* ・ 新規協議会加入自治体数：16団体
	⑤地方経産局イベント支援	地方経産局主催のイベントにおける登壇 ・ 地方経産局からの要請を受け、本事業の紹介や過去採択事業の事例紹介など、講演やパネルディスカッションなどへの登壇を実施。	・ 支援実施件数：3件 (中部経産局1件、北海道経産局2件)
	⑥スマモビ浸透に向けた動画PR	PR動画の作成 ・ 先進的な採択地域を取材し、Smart Mobility Challengeのアクションや目指している世界観が伝わりやすい動画を作成。 PR動画を活用した広告施策や自治体へのアプローチの推進 ・ SNS等のオンラインメディアを活用し、PR動画を発信することで事業啓蒙を進めるとともに、今後も自治体へのアプローチ等でも動画を活用していく。	・ メディア引用数 (記事・ハッシュタグ数) ・ SNS上の動画閲覧回数 ・ キャンペーンサイトアクセス数
	⑦スマートモビリティの創り方（通称スマつく）の公開とそれに伴う協議会HP改修	スマートモビリティの創り方（通称スマつく）の作成・公開 ・ 過去5年間の知見を端的に取りまとめた「スマートモビリティ図鑑（仮称）」を作成し、冊子版の配布およびWeb版の公開を実施。 協議会HPを改修 ・ 協議会HPについて、「スマートモビリティ図鑑（仮称）」の公開にあたって、一部ページの構成を改修。	・ キャンペーンサイトアクセス数 ・ マイページ更新数 ・ 知見集のクリック回数

協議会の会員数は、2020年度の306団体から382団体に拡大した。

スマートモビリティチャレンジ推進協議会の会員数推移（2020年度～2023年度）



上士幌町では10/2に体験会を実施。当日は自動運転、デマンド交通、ドローン配送等の視察を実施し、役場からまちづくり・MaaSの取り組みについてご説明いただいた

上士幌町スマートモビリティ体験ツアーの様子（10/2実施）

- 自動運転バス（現状、L2）の試乗に加えて、高齢者向けのデマンドバス予約システム（タブレット画面）、ドローン配送、無人店舗などを視察
- 視察後、参加者および上士幌町役場による意見交換会を実施し、財政負担の考え方等について活発な議論が行われた



北谷町では自動運転を中心にシャトルカート、ムーンライトクルーズの試乗を行い、役場及びチャタモビ合同会社より事業のご説明を頂き、事業性を中心に闊達な議論が行われた

北谷町スマートモビリティ体験ツアーの様子（10/26実施）

- 美浜シャトルカート（公道ルート、海沿いルート）、ムーンライトクルーズの試乗に加えて、那覇空港と北谷町を結ぶエアポートエクスプレスの視察を実施
- 視察後、参加者およびチャタモビ合同会社・北谷町役場による意見交換会を実施し、エアポートエクスプレスとグリーンスローモビリティの収支モデルを中心に議論が行われた



塩尻市ではのーと、自動運転バス、KADO(住民活用による地図データ作成)の取り組みを中心にご説明を頂き、自動運転バスの試乗会を実施いただいた

塩尻市スマートモビリティ体験ツアーの様子（1/19実施）

- 体験会では最初に塩尻市ご担当者より自営型テレワーク推進事業「KADO」のご紹介、自動運転実証事業のご紹介、AI活用型オンデマンドバス「のーと」のご紹介等、塩尻市の取り組みを広くご紹介。
- また、視察パートでは自動運転バスへの試乗会も実施し、終了後の懇親会も含めて自動運転事業を中心とした闊達な議論が行われた。

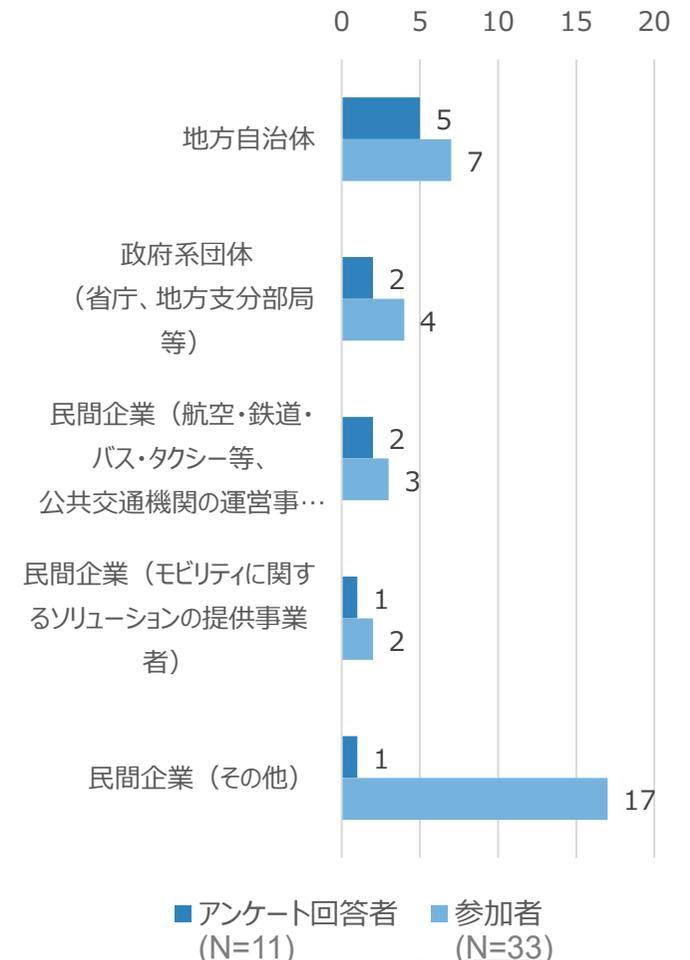


上士幌町・北谷町での体験ツアーはいずれも10月に企画。上士幌町では16名、北谷町では17名が参加し、民間企業からの参加者が多くみられ、高い満足度も得られた

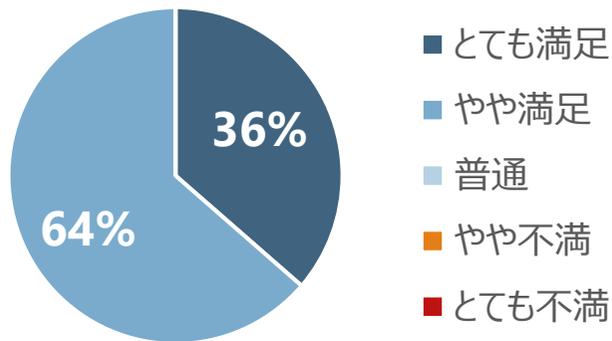
上士幌町・北谷町体験ツアー参加者のアンケート結果

- 10月の体験ツアーでは、上士幌町16名、北谷町17名、のべ33名が参加
- 参加者の所属団体は、コンサルティング等の民間企業を除くと地方自治体が最も多く、交通事業者、モビリティソリューション事業者、政府系団体等様々な所属の方が参加
- アンケートにご回答いただいた全員が「とても満足」「やや満足」のいずれかであり、今後も同様のイベントへの参加意向も高い結果となった

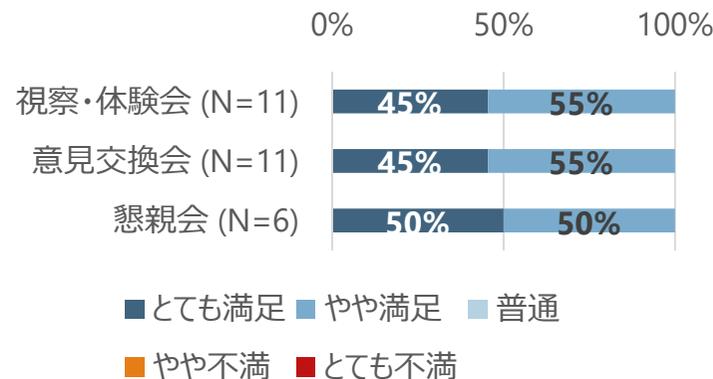
参加者の所属団体



総合満足度 (N=11)



パートごとの満足度 (N=11)

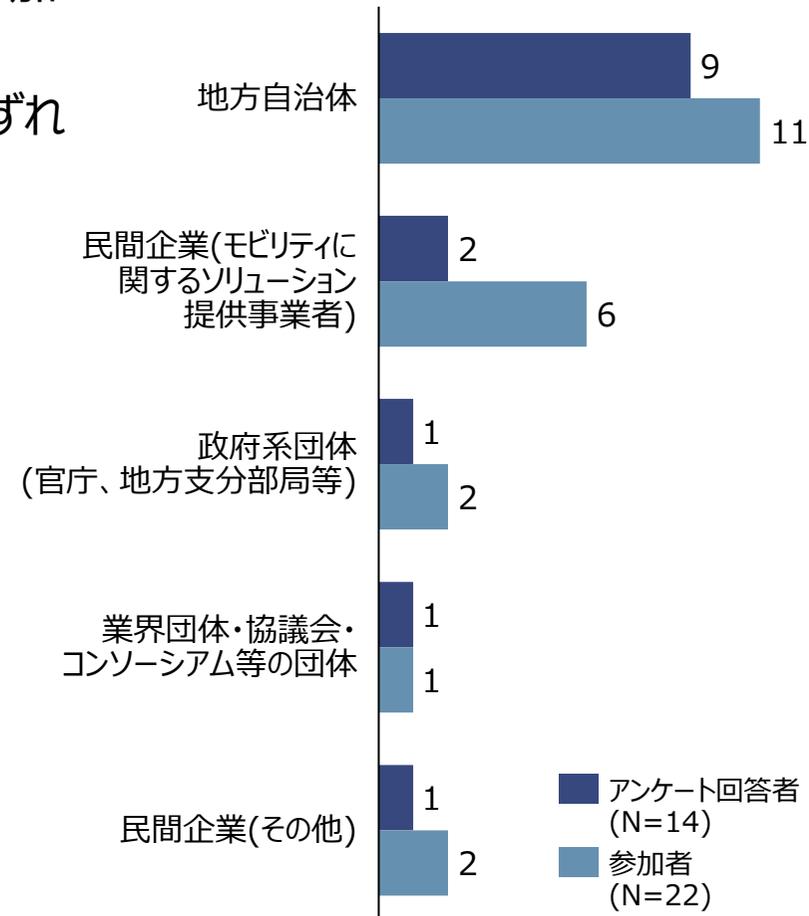


塩尻市では、1月に体験ツアーを企画・実施。当日は全国各地から22名が参加した。内訳としては地方自治体が最も多く、非常に高い満足度も得られた

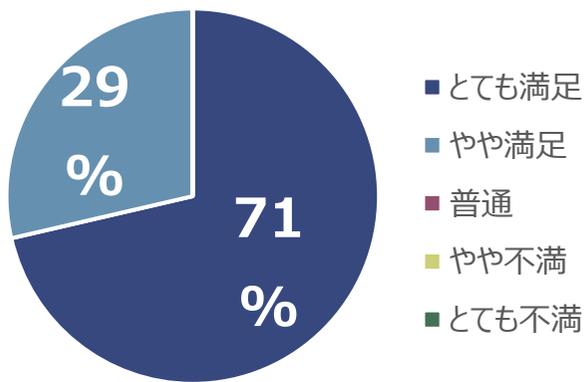
塩尻市体験ツアー参加者のアンケート結果

- 1月の塩尻市体験ツアーでは、27名申し込みがあり、22名が参加。
- 参加者の所属団体は地方自治体の参加者が最も多く、自治体参加者の自動運転への関心の高さが伺えた。
- アンケートにご回答いただいた全員が「とても満足」「やや満足」のいずれかであり、今後も同様のイベントへの参加意向も高い結果となった。

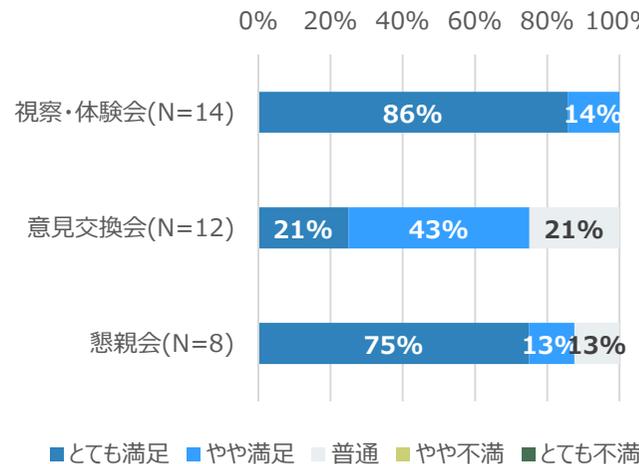
参加者の所属団体



総合満足度 (N=11)



パートごとの満足度 (N=11)



各体験ツアーでは概ね好意的なコメントを頂いた。新モビ導入に際しては、予算確保、技術・規制、ビジネスモデル、自治体担当者のノウハウ・知見不足等の課題が挙げられた

体験会参加者のコメント一覧

- 自動運転の試乗をメインに考えて参加しましたが、予想以上に得るものが多かったです。自動運転試乗では第2グループは市役所からの戻りはトラブルで手動運転となってしまいましたが、それはそれで開発の苦労が見えてよかったです。また、懇親会でのネットワークづくりも時間がたっぷりありました。
- 自治体の取組みについて実際に施設を見学し、知りたかったことを聞くことができましたので、大変ありがたかったです。ありがとうございました。
- 自治体職員の熱意、市のチャレンジ精神など先進的な取り組みを実施できる素地があると感じました。とても魅力ある都市に感じました。
- 自治体主導で要件定義を決めているからうまくいっていると感じました。
- お疲れさまでした。貴重な時間を作っていただき、ありがとうございました。
- 自治体の皆様に大変内容の濃い情報提供を頂き、とても参考になりました。可能なら現地での実体験などに時間的余裕があれば良かったかも知れません。
- 自治体の皆様のプレゼンがどれも素晴らしく、抱える課題/何を指すのかをもものすごく理解できた。その中で、「小規模の自治体で大企業が最後まで参加するとは思えない(ビジネス的に大企業に旨味がない規模)。大企業は、ここでの開発を国内・海外に横展開するところに魅力を見出してほしい」とのコメントが、自治体の本音として把握できたのがよかったです。

体験会参加者から挙げられた新たなモビリティの導入課題一覧

【予算確保】

- 導入時は国の補助金が出るが、維持するための収益性・持続可能性の確保が困難
- 住民が必要とするモビリティに対して、いかに行政負担(予算)を軽減できるか
- 導入にあたり新たな用地買収等の資金調達が困難
- 導入・運用に係る資金の調達、国等の補助金への依存度を下げる仕組みや更なる工夫が必要
- 結局マネタイズの点がやはり課題

【技術・規制】

- 駐車車両等による手動運転の介入⇒地域の交通規制等も含めた運用ルールを検討する必要がある。

【ビジネスモデル】

- 社会実装に向けたマネタイズやビジネスモデルの構築、既存の交通事業者との調整
- 利用者をどのように増やすのか、どこから利用者を奪ってくるのかが課題

【その他】

- 自治体のノウハウ不足

各取組の進捗：④基礎自治体向けアプローチ（成果報告会の開催）

全国1,741自治体*で交通を担当していると想定される部署をリストアップ。知見集や協議会入会案内＆体験会チラシのDM郵送等、プッシュ型アプローチで認知向上を図った

- 実際にDMを見て協議会へのお問い合わせや体験会にお申込みいただくなど、協議会活動の認知向上に一定程度寄与したものと想定される。

全国1,741自治体のリストの一例

No.	市町村	郵便番号	住所	自治体名	部署名	メールアドレス	①電話番号	②電話番号（代表）
1	愛別町	078-1492	北海道上川郡愛別町字本町179	愛別町役場	総務企画課企画財政係		01658-6-5111	01658-6-5111
2	赤井川村	046-0592	北海道余市郡赤井川村字赤井川74-2	赤井川村役場	企画課企画調整係		0125-32-1834	0135-34-6211
3	赤平市	079-1192	北海道赤平市泉町4-1	赤平市役所	企画課企画調整係		0125-32-1834	0125-32-2211
4	旭川市	070-8525	北海道旭川市6条通9丁目	旭川市役所	地域振興部都市計画課公共交通担当		0166-25-9851	0166-26-1111
5	芦別市	075-8711	北海道芦別市北1条東1-3	芦別市役所	企画政策課	kikaku@city.ashibetsu.hokkaido.jp	0124-27-7061	0124-22-2111
6	足寄町	089-3797	北海道足寄郡足寄町北1条4-48-1	足寄町役場	総務課企画調整		015-628-3851	0156-25-2141
7	厚岸町	088-1192	北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地	厚岸町役場	総合政策課政策調整係	seisaku@akkeshi-town.jp	0153-52-3131	0153-52-3131
8	厚沢部町	043-1113	北海道檜山郡厚沢部町新町207	厚沢部町役場	政策推進課政策推進係		0139-64-3312	0139-64-3311
9	厚真町	059-1692	北海道虻田郡厚真町京町120	厚真町役場	まちづくり推進課企画調整グループ		0145-27-3179	0145-27-2321
10	網走市	093-8555	北海道網走市南6条東4丁目	網走市役所	企画総務部企画調整課企画係		0152-44-6111（内線：351、361）	0152-44-6111
11	安平町	059-1595	北海道虻田郡安平町早来大町95	安平町役場	政策推進課政策推進グループ		0145-22-2751	0145-22-2511
12	池田町	083-8650	北海道中川郡池田町西1条7-11	池田町役場	企画財政課企画統計係		015-572-3112	015-572-3111
13	石狩市	061-3292	北海道石狩市花川北6条1-30-2	石狩市役所	企画課		0133-72-3161	0133-72-3111
14	今金町	049-4393	北海道瀬棚郡今金町字今金48-1	今金町役場	まちづくり推進課企画政策グループ		0137-82-0111	0137-82-0111
15	岩内町	045-8555	北海道岩内郡岩内町字高台134-1	岩内町役場	経営企画部企画財政課	kikaku@town.iwanai.lg.jp	0135-62-1011	0135-62-1011
16	岩見沢市	068-8686	北海道岩見沢市場が丘1-1-1	岩見沢市役所	企画室		0126-35-4834	0126-23-4111
17	歌志内市	073-0492	北海道歌志内市字本町5	歌志内市役所	企画財政課企画広報グループ		0125-42-3214	0125-42-3212
18	浦臼町	061-0692	北海道樺戸郡浦臼町字ウラスナイ183	浦臼町役場	総務課交通防災係		0125-68-2111	0125-68-2111
19	浦河町	057-8511	北海道浦河郡浦河町築地1-3-1	浦河町役場	総務課	soumu@town.urakawa.hokkaido.jp	0146-22-2311	0146-22-2311
20	浦幌町	089-5692	北海道十勝郡浦幌町字桜町15-6	浦幌町役場	総務課	soumu@urahoro.jp	015-576-2111	015-576-2111
21	雨竜町	078-2692	北海道雨竜郡雨竜町字フシコウリウ104	雨竜町役場	総務課企画財政担		0125-77-2211	0125-77-2211
22	江差町	043-8560	北海道檜山郡江差町字中歌町193-1	江差町役場	まちづくり推進課		0139-52-6712	0139-52-1020
23	枝幸町	098-5892	北海道枝幸郡枝幸町本町916	枝幸町役場	企画課		0163-62-1329	0163-62-1234
24	恵庭市	061-1498	北海道恵庭市京町1	恵庭市役所	企画振興部企画課		0123-33-3131（内線：2344）	0123-33-3131
25	江別市	067-8674	北海道江別市高砂町6	江別市役所	政策推進課公共交通担当		011-381-1295	011-382-4141
26	えりも町	058-0292	北海道幌泉郡えりも町字本町206	えりも町役場	企画課		01466-2-4612	01466-2-2111
27	遠軽町	099-0492	北海道紋別郡遠軽町1条通北3-1-1	遠軽町役場	企画部	kikaku@town.engaru.jp	0158-42-4818	0158-42-4811
28	遠別町	098-3543	北海道天塩郡遠別町字本町3-37	遠別町役場	企画振興係	kikaku@town.embetsu.hokkaido.jp	01632-7-2111	01632-7-2111
29	雄武町	098-1792	北海道紋別郡雄武町本町	雄武町役場	財務企画課		0158-84-2121	0158-84-2121
30	大空町	099-2392	北海道網走郡大空町女満別西3条4丁目1	大空町役場	総務課		0152-74-2111	0152-74-2111
31	奥尻町	043-1498	北海道奥尻郡奥尻町字奥尻806	奥尻町役場	地域政策課政策推進係		01397-2-3402	01397-2-3111
32	置戸町	099-1100	北海道常呂郡置戸町字置戸181	置戸町役場	企画財政課		0157-52-3311	0157-52-3311
33	興部町	098-1692	北海道紋別郡興部町字興部710	興部町役場	まちづくり推進課企画調整係		0158-82-2132（内線322）	0158-82-2131
34	長万部町	049-3592	北海道山越郡長万部町字長万部453-1	長万部町役場	まちづくり推進課企画係		01377-2-2450	01377-2-2000
35	小樽市	047-8660	北海道小樽市花園2-12-1	小樽市役所	総務部企画政策室企画政策グループ	kikaku@city.otaru.lg.jp	0134-32-4111	0134-32-4111

各取組の進捗：④基礎自治体向けアプローチ（成果報告会の開催）

午前の第一部「RoAD to the L4成果報告会」については、以下の内容で開催。
(2024/2/28@日比谷BASE Q)

当日のプログラム・第一部「RoAD to the L4 成果報告会」

07:00~10:00	会場設営&テクリハ
09:30~09:45	最終確認（登壇者リハ）
09:30~10:00	受付～開会
10:00~10:05	開会挨拶 経済産業省 製造産業局 自動車課 モビリティDX室長 伊藤 建 氏
10:05~10:25	「プロジェクトの全体像、及び、レベル4モビリティ・アクセラレーション・コミティについて」 RoAD to the L4 プロジェクトコーディネーター／国立研究開発法人 産業技術総合研究所 招聘研究員 横山 利夫 氏
10:25~10:45	テーマ1：【福井県永平寺町】 「遠隔監視のみ(レベル4)自動運転サービスの実現に向けた取組」 テーマ1 テーマリーダー／国立研究開発法人 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 デジタルアーキテクチャー研究センター 首席研究員 加藤 晋 氏
10:45~11:05	テーマ2：【ひたちBRT(茨城県日立市)】 「公道交差を含む専用道区間等におけるレベル4 自動運転サービスの実現に向けた取組」 テーマ2 テーマリーダー／(同上) 加藤 晋 氏
11:05~11:25	テーマ3：【第二東名高速】 「高速道路における高性能トラックの実用化に向けた取組」 テーマ3 テーマリーダー／株式会社ネクスティ・エレクトロニクス 技監 小川 博 氏
11:25~11:45	テーマ4：【柏の葉(千葉県柏市)】 「混在空間でインフラ協調を活用したレベル4 自動運転サービスの実現に向けた取組」 テーマ4 サブリーダー／東京大学 生産技術研究所 機械・生体系部門 次世代モビリティ研究センター (ITS Center) 特任研究員 萩野 光明 氏
11:45~12:00	質疑応答
12:00~13:00	休憩、第二部準備

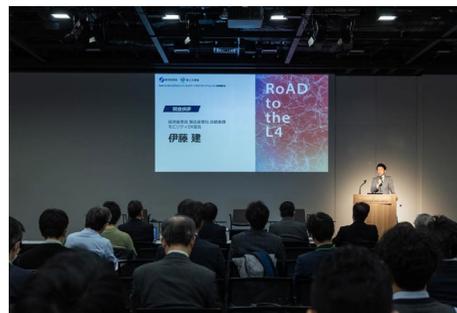
当日の様子



▲ 会場の様子



▲ 会場入り口

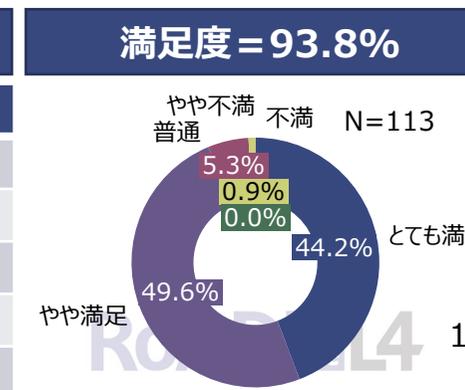


▲ 開会挨拶



▲ 登壇者質疑

事前参加申込者	
項目	人数
計	513名
うち、対面	125名
うち、オンライン	378名
うち、自治体	85名
うち、交通事業者	43名



午後の第二部「スマートモビリティチャレンジ成果報告会」については、以下の内容で開催。
併せて午前中に「採択地域全体定例会」を実施した(2024/2/28@日比谷BASE Q)

当日のプログラム・第二部「スマートモビリティチャレンジ成果報告会」

07:00～10:00	会場設営&テクリハ
10:00～12:00	採択地域全体定例会
12:30～12:45	最終確認（登壇者リハ）
12:30～13:00	受付～開会
13:00～13:45	基調講演「テクノロジーがもたらすモビリティ・地域社会の未来」 株式会社野村総合研究所 研究理事 コンサルティング事業本部 副本部長 桑津 浩太郎 氏
13:45～14:10	スマートモビリティの将来像（知見集発表①） 株式会社野村総合研究所 アーバンイノベーションコンサルティング部 川手 魁 氏 / 倉林 翼 氏
14:10～14:35	スマートモビリティの効果・普及方法（知見集発表②） 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 橋本 尚久 氏 / 安藤 貴史 氏
14:35～14:45	知見集発表に対する質疑応答
14:45～15:00	～休憩・動画上映～
15:00～15:50	パネルディスカッション スマートモビリティチャレンジ推進協議会 アドバイザーボード 委員 牧村 和彦 氏 上土幌町 デジタル推進課 課長 梶 達 氏 永平寺町 総合政策課 課長補佐 山村 徹 氏 静岡市 交通政策課 主査 大前 明生 氏 名古屋鉄道 地域連携部 交通サービス担当課長 花村 元気 氏
15:50～16:00	閉会挨拶 スマートモビリティチャレンジ推進協議会 アドバイザーボード 委員長 石田 東生 氏
16:00～16:30	ネットワーキング
16:00～17:00	閉会～撤収

当日の様子



▲登壇者質疑



▲パネルディスカッション



▲ネットワーキング

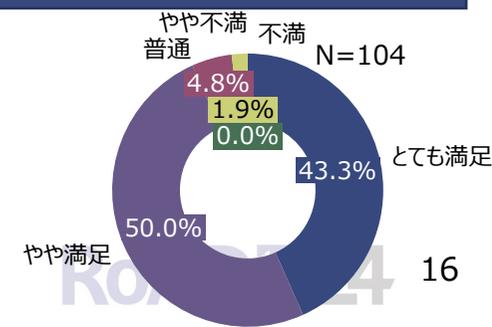


▲閉会挨拶

事前参加申込者

項目	人数
計	479名
うち、対面	123名
うち、オンライン	356名
うち、自治体	85名
うち、交通事業者	43名

満足度 = 93.3%



本イベントでは批判者が11.9%と1割程度いるものの、推奨者が43.6%もおり、参加意向もほぼ全員が意向ありと回答。イベントの実施意義を一定程度感じて頂けたものと推察

本イベントへのおすすめ度（NPS）

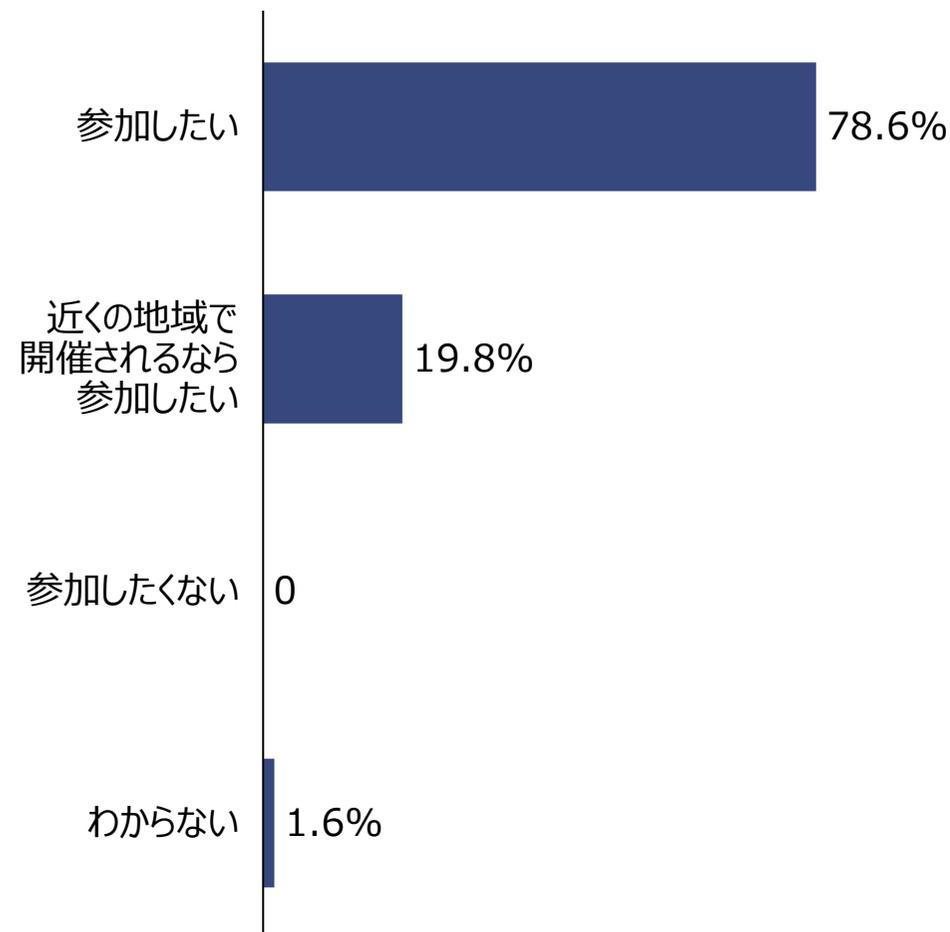
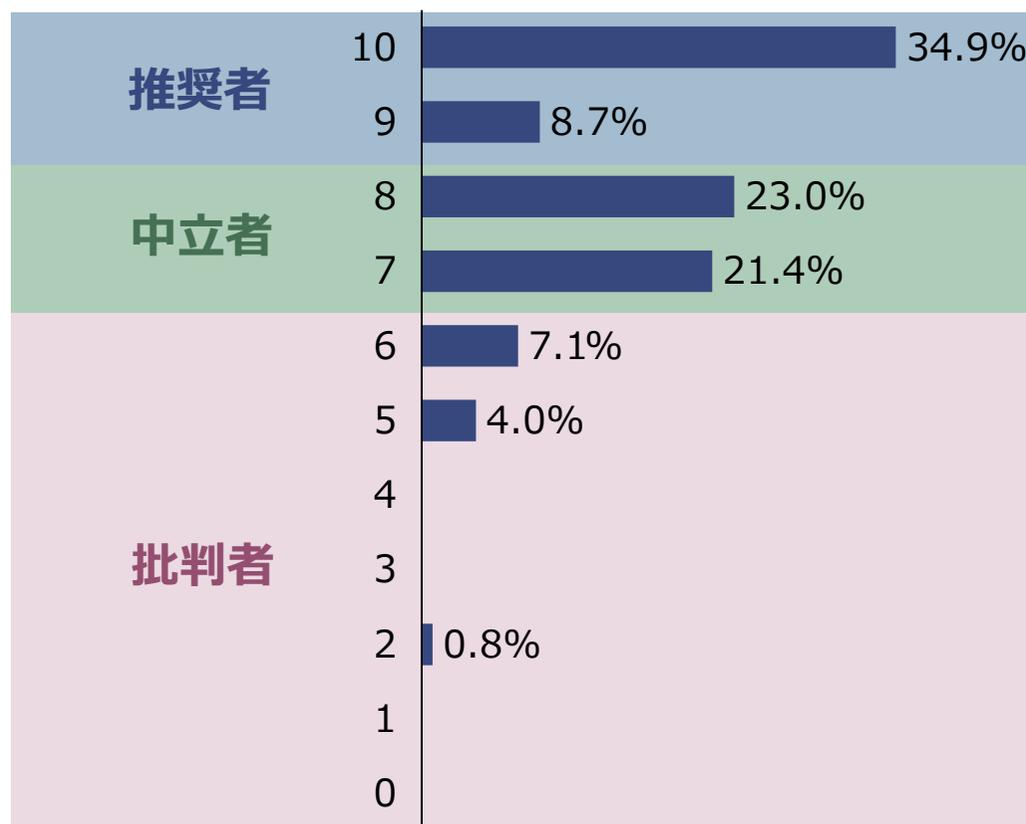
N=126

今後の同様のイベントへの参加意向

N=126

NPS : 31.7

=「推奨者(9-10)の割合」-「批判者(0-6)の割合」

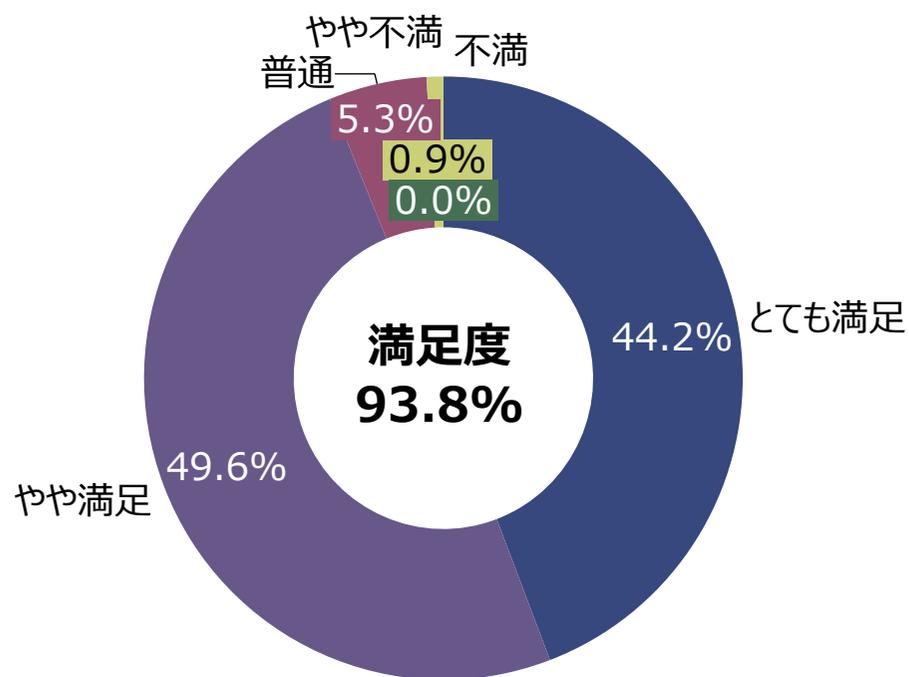


本イベントの満足度は、第一部・第二部それぞれ以下の通り。いずれも9割以上が満足と回答しており、概ね好評を得られたものと推察

本イベントの満足度（第一部：RoAD to the L4／第二部：スマートモビリティチャレンジ）

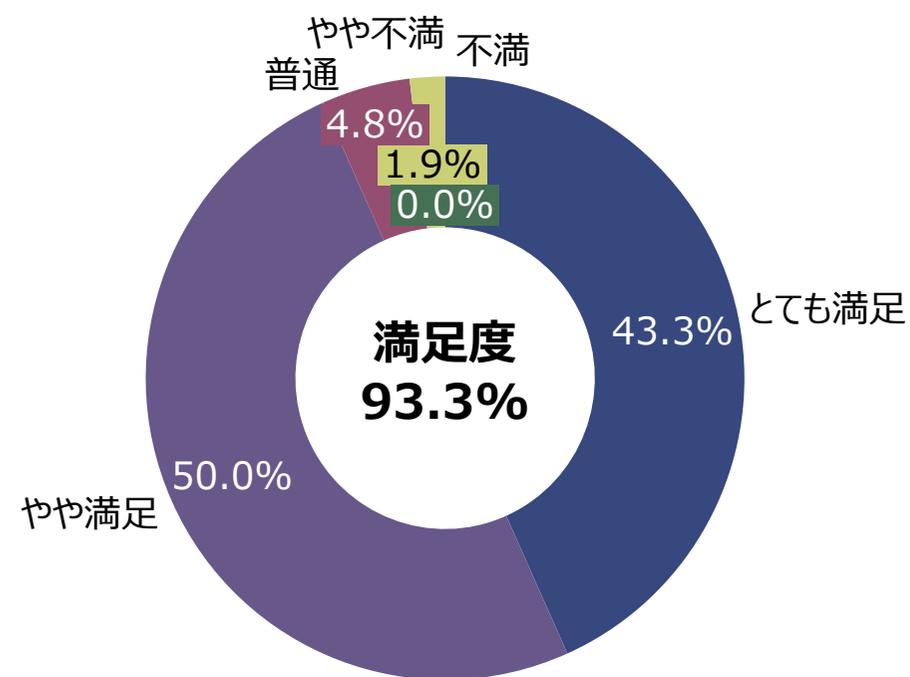
RoAD to the L4

N=113



スマートモビリティチャレンジ

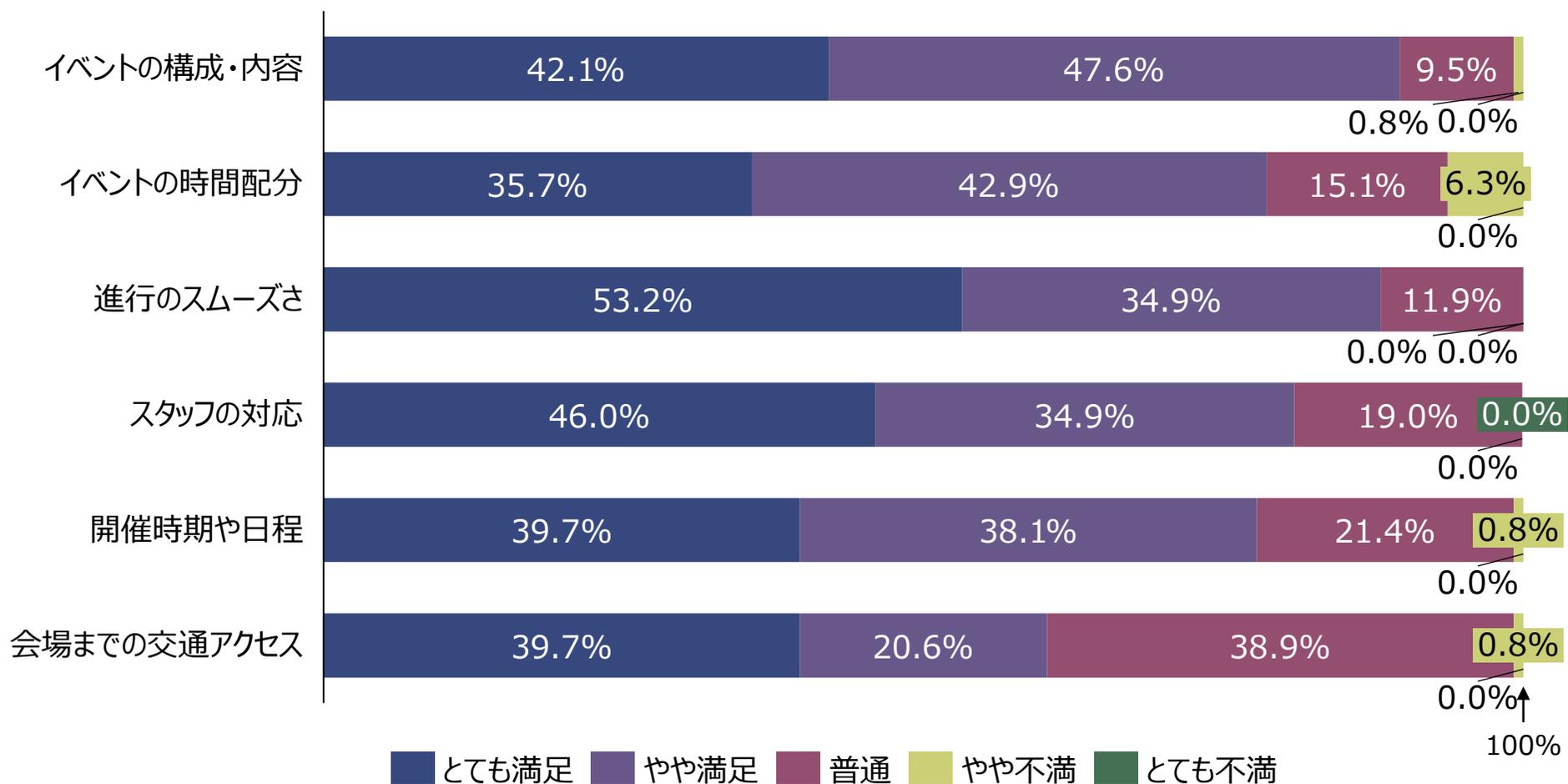
N=104



運営面での満足度は以下の通り。全国各地から対面参加いただいたことやタイトな時間割であったこともあり、アクセスや時間配分はやや満足度が低めとなっており改善余地あり

イベント全体の運営面の各要素についての満足度

N=126



各取組の進捗：⑤地方経産局イベント支援

地方経産局イベント支援としては、以下の中部経産局主催の勉強会1件、北海道経産局主催のシンポジウム2件の計3件の登壇協力を実施。各回70～100名以上が参加

中部経産局・北海道経産局のイベント概要一覧（チラシ）



地域のモビリティサービスを一緒に考える
自治体向け勉強会&見学会

中部経済産業局では、地域でのMaaS普及や取組の促進を目指し、自治体職員の方を対象とした現場見学会を開催します。
見学会前に野村総合研究所 稲垣仁美氏によるオンライン勉強会、見学会時には計量計画研究所 牧村和彦氏をファシリテーターにお迎えした意見交換会も併せて行います。

最新モビリティサービスの動向把握や課題感を同じくする自治体の皆様とのネットワーク構築にぜひご活用ください！

全体スケジュール

- 10/12 (木)** MaaS勉強会
・オンライン@Teams
・講師：野村総合研究所 稲垣氏
- 10/23 (月)** 見学会@各務原市
・「チョイノカかみがはら」
・「湯郷早々GARDEN&FACTORY」
株式会社日本温浴研究所
- 11/7 (火)** 見学会@日進市
・自動運転バス「にしんアルム」

- 見学会① 各務原市**
開催日時：2023年10月23日(月)
13:30-16:30
内容：概要説明、講演、見学、意見交換会
定員：10名程度
- 見学会② 日進市**
開催日時：2023年11月7日(火)
13:30-16:30
内容：概要説明、実証見学、意見交換会
定員：10名程度

勉強会・見学会への申込方法・注意事項

- 申し込みフォームへ必要事項をご入力ください（ご案内メールにもリンク先を記載しています）。
申し込みフォーム：URL: https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/chubu01/20231012_entry
申込〆切：2023年10月5日(木) 申込フォームQRコード
- 参加無料ですが、見学会の現地までの移動は各自ご負担ください。
- 申込状況により、希望の見学地域に参加できない場合がございます。その際は、別途調整させていただきますと、ご了承ください。

お問い合わせ先 **中部経済産業局産業部製造産業課 自動車関連産業室 (TEL 052-951-2724)**

スマートモビリティシンポジウム in 室蘭
地域を救う！誰もが気軽に移動できる公共交通の新たな形
2024年1月27日(土) 定員100名 参加無料
シンポジウム 13:30-15:00 / 展示 15:00-16:00
会場：FK ホールディングス生涯学習センターきらん 2F 多目的室（室蘭市中島町2丁目2-1）
主催：経済産業省北海道経済産業局 協力：室蘭市

イベント申込方法
2024年1月25日 締め切り
https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/hokkaido02/20240127_symposium
※電話、メールでのお申込みは事務局まで

プログラム
パネルディスカッション
登壇者紹介・取り組みの説明
テーマ：地域の公共交通課題と解決方法について
内容：今より移動がもっと便利になればと感じることはありませんか？
公共交通の課題に対する全国の先進地域の取組事例や、室蘭市内で行われている実証実験の内容を紹介しながら、誰もが気軽に移動できる地域社会の実現に向けてディスカッションします。

コーディネーター
室蘭工業大学 もの創造系領域社会基盤ユニット 教授 有村 幹史 氏
2005年(財)建設省新技術推進機構建設研究所研究員。2008年(財)日本建設業振興機構建設研究所専任。2019年(財)国土交通省 研究開発部 研究員。2021年(財)建設、現任、北海道都市計画審議会会長を務めつつ、交通施策に関する実証的研究開発を進めている。

パネリスト
室蘭市都市建設部都市政策推進課 主査 堀井 教史 氏
2003年(財)国土交通省 卒業後、ハウスメーカー、商社・建築事務所を経て、2014年室蘭市に入社。
入社後は建築部を経て、建築管理や検査を主に担当し、2020年7月より現職。
主に公共交通施策を担当。

お問い合わせ先
事務局 株式会社アカンパニートクノロジー
営業時間 / 10:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始 12/29 ~ 1/3 は休業)
E-mail: event_info@webinar.net
TEL: 080-2169-4010 担当：高野

スマートモビリティシンポジウム in 函館
人口減少下の地域に求められる公共交通とは？
2024年2月9日(金) 定員100名 参加無料
時間 13:30-15:00
場所：函館市勤労者総合福祉センター サン・リフレ函館 2階 大会議室 函館市大森町2番14号
主催：経済産業省北海道経済産業局 後援：函館市

イベント申込方法
2024年2月7日(水) 締め切り
https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/hokkaido02/202402_01_samroadtsym
※電話、メールでのお申込みは事務局まで

プログラム
■事例紹介
「全国の公共交通課題とモビリティを起点とした地域課題解決の進め方」
株式会社野村総合研究所 アーバンイノベーションコンサルティング部 主任コンサルタント 稲垣 仁美 氏
「函館市の公共交通の現状と課題」
函館市 企画部 計画推進室 交通政策課 課長 横山 敬一 氏
「ITを活用した公共交通支援の取組」
株式会社未来シェア 取締役 (公立はこだて未来大学 教授) 平田 圭二 氏
「モビリティサービスによる買物難民支援に向けた取組」
サツドラホールディングス株式会社 CEO 山本 英夫 氏
■パネルディスカッション
「函館市の交通課題解決に資する新しい移動サービスとは」
後日、経済産業省YouTubeチャンネル (metichannel) にてアーカイブ配信

コーディネーター
株式会社野村総合研究所 アーバンイノベーションコンサルティング部 主任コンサルタント 稲垣 仁美 氏
パネリスト
函館市 企画部 計画推進室 交通政策課 課長 横山 敬一 氏
株式会社未来シェア 取締役 (公立はこだて未来大学 教授) 平田 圭二 氏
鹿児島大学工学部都市環境工学学際連携工学連携専攻、2017年より「公立はこだて未来大学」教授、2020年より大学発ベンチャー企業「株式会社未来シェア」取締役を務める。
サツドラホールディングス株式会社 CEO 山本 英夫 氏
1992年函館市に入社。観光部観光課課長、観光部観光課長、観光部観光課長、観光部観光課長を歴任。2022年から広島県にて実証中の「[MaaS]」ではプロジェクトリーダーを務めている。

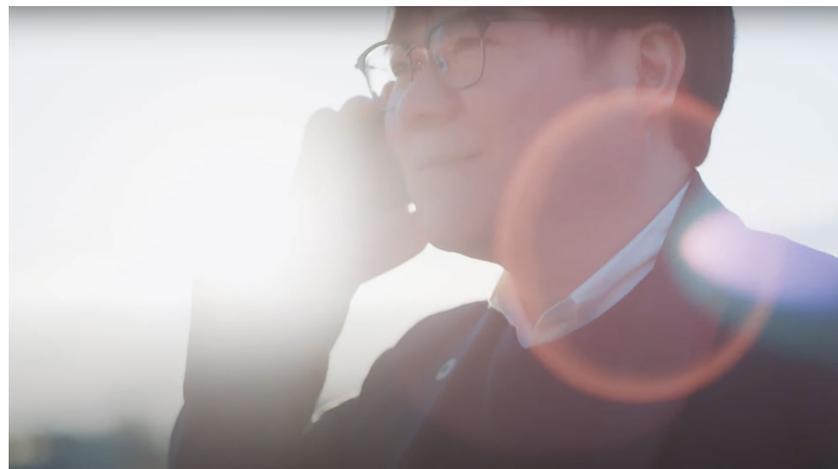
お問い合わせ先 事務局 株式会社アカンパニートクノロジー
E-mail: event_info@webinar.net
TEL: 080-2169-4010 営業時間 / 10:00 ~ 17:00 担当：高野

動画は仮想自治体が移動課題を解決していくメインストーリーを描くとともに、過去採択地域の上士幌・永平寺のご担当者様へのインタビューを挟む形でドキュメンタリー風に制作

SmartMobility連続ドラマ Vol.1 第一話：
オンデマンド交通編「チャレンジするメリットがそこにある。」



SmartMobility連続ドラマ Vol.2 第二話：
自動運転編「つなげることで生み出される未来とは。」



また、動画はメインストーリーに加え、15秒程度のショートバージョンも制作。
以下のようなイメージで広告配信も行い、スマートモビリティチャレンジHPへの誘導も行った

制作したショート動画広告のイメージ



取組の横展開を推進するために、5年間の実証で培った知見をもとに、「各地域が自力で取り組める」環境の創出を目指したガイドブックを作成

背景

- スマートモビリティやMaaSの「解説書」や「事例集」は、本事業内外で既に数多く存在する
- 一方で、自治体や事業者からは「具体的な検討手順や検討の粒度が分からない」という声が挙がっており、本事業における応募資料も「玉石混淆」の状態（構想が非現実的、実証の目的が曖昧といった提案書が見られるなど）

作成目的

- 5年間の実証知見をもとに、「ガイドブック」形式で、スマートモビリティの取組類型や、具体的な検討手順・検討粒度を示すことで、「新たに取り組む地域が、自力で一定水準の検討を行える」状態をつくる

成果物

約80ページの
ガイドブック

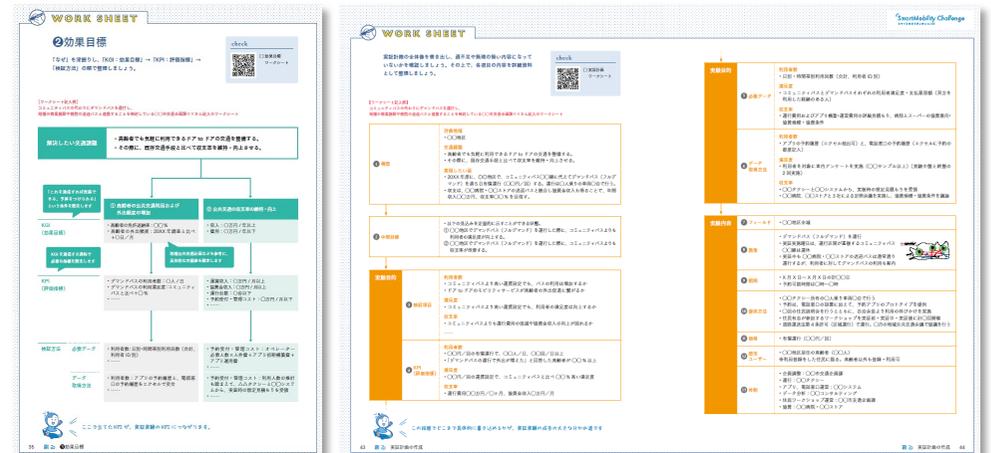
①「知る」編

- 「スマートモビリティ」という難解な概念を体系化し、どのような施策メニューが考えられるのか、どのようにメニューを選んでいくべきかを例示



②「創る」編

- 構想や実証計画の策定で押さえるべきポイントや先行事例を解説するとともに、検討手順に沿って、実際の検討時に活用できるワークシートを掲載
- このほか「スマートモビリティの健康増進効果」など、研究知見もコラムとして掲載



The logo for 'Smart Mobility Challenge' features the word 'Smart' in a blue sans-serif font with three curved lines above it. 'Mobility' and 'Challenge' are in a larger, blue, italicized sans-serif font. The 'o' in 'Mobility' and the 'o' in 'Challenge' are highlighted with a red dot.

Smart Mobility Challenge

スマートモビリティチャレンジ